

奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民投句

小中学生の部

令和五年七月度 入賞句一覧 投句数 千五百十八句

特選



長町 誠司 選

五月雨心の隅のわだかまり

加茂郡川辺町 西垣 陽翔(中三)

「五月雨」は、「さつきあめ」と五音で読みます。五月雨(さみだれ)の傍題として「季寄せ」などに掲載されており、梅雨時に降る雨そのものを指します。作句の折に混同されがちですが、「梅雨」はその時期のことを指すので気をつけたいものです。作者の心に隅には、わずかな不満・不信があるようです。この気持ちと、梅雨の時期の雨のもつイメージをうまく取り合わせた一句になりました。

七日は笹に私がおしやれする

大垣市 山田 日和(小二)

「七日」は「しちにち」と五音で読みます。一句に「七日」と「笹」が登場することで、「七夕」のことだと誰もが想像できます。一般的に、短冊は吊るすとか飾ると表現しますが、作者はおしやれをしてあげるという表現を使いました。良い感性ですね。まるでフアツションショーのモデルさんに服を着せるフイツターのようです。たくさんおしやれしてもらった七夕も、作者に感謝しているに違いありません。

台風があいさつするためやつて来た

大垣市 後藤 彩乃(小六)

洪水や災害をおこす台風は、一般的には負のイメージです。そんな台風が「あいさつ」するためにつてくると作者は言っています。なんと素晴らしい感性なのでしょう。台風はどんな「あいさつ」で日本に上陸すると思いますか。この句を読んだ皆さんは、台風がどんな「あいさつ」で日本に上陸すると思いますか。私には「こんにちは!CO2や排気ガスで汚れた空気や、コロナウイルスを吹き飛ばしに来ました」と挨拶するような気がしてなりません。台風を擬人化した作品です。

秀逸

あまがえるいつしよにいと雨がふる

大垣市 杉本 彩華(小五)

楽しさは花火とともに舞い上がる

加茂郡川辺町 有本 樹奈(中二)

夏空は雲の落書き一つない

加茂郡川辺町 山田 心冴(中二)

夏祭りいつもとちがうよるがいる

加茂郡川辺町 日比野 遙生(中三)

もやいぶね葉桜うつる雨あがり

大垣市 笠野 旭(小六)

アメンボの変な動きで川も動く

大垣市 上村 奏太(小六)

南風水門川に波が立つ

大垣市 辻野 そよ香(小六)

鳴く蝉が切ない時間を過ごしてる

大垣市 川瀬 依織(小六)

母の日にバラ三輪をプレゼント

大垣市 三宅 彩葉(小六)

夏休み朝ごはん十時昼ご飯十二時

不破郡垂井町 高井 彩音(中三)

入選

小中学生の部

ムラムラだ体育終わりの教室は

加茂郡川辺町

桐山 倫実(中二)

セミの声夏の暑さをよんでいる

加茂郡川辺町

中島 栞奈(中二)

ばあちゃんの得意げな顔夏野菜

加茂郡川辺町

神田 昇輝(中三)

暑夏や風に舞う蝶色に酔う

加茂郡川辺町

中山 竜鳳(中三)

人見知りすぐ目をそらす扇風機

加茂郡川辺町

山口 翔大(中三)

夏の風ばしようといっしょにあゆんでる

大垣市

片野 游(小六)

あとすこしがんばれじぶんなつやすみ

大垣市

山田 桔平(小二)

じいちゃんのはたけにできたゾおばけきゅうり

大垣市

山田 瑞歩(小二)

プールの日ヘルパーなしでおよげたよ

大垣市

ダシルバ 美姫(小二)

しちやくした水ぎがきつきいかいにく

大垣市

馬淵 可奈(小二)

つうがくろいそいでほしいなかたつむり

大垣市

早崎 羽音(小二)

アメンボが波に逆らい跳びはねる

大垣市

桐山 習史(小六)

あめんぼが必死に川を泳いでる

大垣市

西田 翔(小六)

かたつむりゆつくりうごくのんびりや

大垣市

仲田 めい(小三)

父の日に言われてわたすプレゼント

大垣市

松田 莉愛(小六)

あまがえるひとみにうつつたメスの顔

大垣市

佐々木 海知(小六)

木のかげでセミと一緒に休けい中

大垣市

後藤 彩乃(小六)

万緑をかがやかせるのは日の光

大垣市

北村 樹(小六)

窓あけて家族と食べる冷奴

大垣市

安田 悠人(小六)

やめてくれ熱風を出す扇風機

加茂郡川辺町

日下部 巧実(中二)

選者吟

見えぬ根に見えざる力沙羅の花

せいじ

